



石 巻 か ほ く 2025年(令和7年)6月28日(土曜日)

2025. 8月号

修学旅行に震災教訓を

愛知・愛西市 生徒の石巻訪問 支援

愛西市の全6中学校は5月初旬から学校別などで石巻市を訪問。6月18日には愛西市佐屋中の3年生と教員、市関係者ら約200人が大型バス5台で訪れた。石巻市南浜地区の石巻南浜津波復興記念公園周辺で、班ごとに震災学習プログラムに取り組んだ。

プログラムは同市の公益社団法人3・11メモリアルネットワークが提供。各班はスタッフらの案内の下、公園近くにある法人の伝承交流施設「MEET門脇」や市震災遺構門脇小などを巡った。被災当時の写真を見ながら、被災の経験や教訓をスタッフから聞いた。

MEET門脇では、震災でまな娘を失った地元の語り部が命や日常の尊さを語った。大橋明美さん(14)は「助けを求めても届かなかった声があったことを被災

伝承関係者「モデルケースに」

南海トラフ巨大地震で大きな被害を受ける恐れのある愛知県愛西市が、地域の防災を担う人材育成を目標とし、市内全中学校の修学旅行先として石巻市を選定し、東日本震災からの教訓を学ぶにつれて、毎年約6000万円を予算化して負担し、3年間で生徒約1800人の石巻訪問を支援した。震災の教訓を発信する石巻の関係者は「震災学習のモデルケースとして県内外の学校に広がってほしい」と期待する。



メモリアルネットのスタッフ(奥中央)から震災の被害について説明を受ける生徒たち=18日、石巻市日和が丘

市南浜、門脇町の両地区を訪れる県内の小中高校のバス経費を補助する事業を実施してきた。一方、原資となる官民の助成金は第2期復興・創生期間(2021〜25年度)の終了に伴い、本年度いっぱいでは打ち切られる。メモリアルネットのバス経費の補助も、本年度で終了させるを得ないという。中川政治専務理事は「記念公園とその周辺が持つ防災学習の機能は大きい。被災地として教訓を継承する役割を果たすために、何ができるのかを官民で考えていく必要がある」と話した。

安泉寺ハザード会代表の野呂美道より上の新聞記事と右の手紙文の一部を紹介しす。鈴木京子さんは女川町の方で2012以来、深い親交があります。いつも石巻地方の新聞記事をタムリーに送ってくれます。愛西市の中学生の被災地研修を載せてくれました。嬉しい限りです。

先日、修学旅行、震災教訓と題され、愛西市の取り組みが、この新聞に掲載されました。野呂美道さん、ハザード会の皆さまが、何度の何度の被災地を駆け巡り、被災地を、重大な教訓を伝えて下さったことが、愛西市の皆さんの防災意識を高める要因につながったのだと思います。被災地へ足を運び、自分の目で見て聞くことが、真の学びと野呂さんが、ずっとおっしゃっていたことが浸透されたのだと思います。素晴らしい野呂美道の取り組みに改めて感謝します。鈴木京子

新聞記事に私がコメントを寄せました。

愛西市が市内のすべての中学3年生に、修学旅行のコースとして、被災地を訪問する企画を始めて2年、その効果は着々と出始めています。

何より素晴らしいのは、日本一液状化の被害が予想される、濃尾平野の海拔ゼロメートル地帯の、将来を

担う子どもたちが災害学習をするという、画期的な取り組みです。未来への投資、高齢者の中には、こういうことに大いに税金を使えという意見も聞きました。(裏へ→)

2025 5 月 第264号	—若狭の原発を考える— はとぽっぽ 通信	原発設置反対小浜市民の会 ☎917-8691 小浜郵便局私書箱第3号 (連絡先) TEL:0770-57-1355 FAX:0770-57-1852 (郵便払込取扱票・番号) 00730-4-16220
-------------------------------	--	--

平和憲法第9条を具現化するために — 自衛隊を災害救助隊へ

- ・ 闇深ければ、光も強し。—かの世界大戦下での幾百千万もの犠牲という大十字架を背負って、日本の平和憲法9条は誕生したのではなかったか。
- ・ しかし、「陸海空その他の戦力を保持しない」という眼目は、現在どうなっているのだろうか。20数万余の自衛官・防衛省関係官が現存し、軍事費は激増する一方。
- ・ その現実を直視しつつ、陸海空の自衛官を失職させることなく、自衛隊を災害救助隊へ、防衛省を防災省へ転換・再編することを提言したい。膨大な軍事費を転用すれば、財源は十分。
- ・ 戦争やその準備にかまけている余裕など、現在の地球世界にはないからだ。地水火風などの大災害が頻発し、逼迫しているからだ。
- ・ 自衛隊を災害救助隊へ。—その目的、教育、訓練、装備などの内実を対比してみようではないか。戦争か、平和か。人命殺傷か、人命救助か。破壊か、復興か。等々。
- ・ 例えば、戦艦を、原発震災などの被災住民に衣食住を供与できる避難船へ。空・陸の戦闘機や戦車を、被災住民の敏速な移動や被災地の復興支援のための機動力へ。装備は、武器ではなく、災害救援・防災に必要な機材物資へ。
- ・ 何よりも、災害救助隊員は使命感にあふれるだろうし、救助される人々からはどれだけ感謝されることだろう。

このいささか過激な意見を述べているのは、私が常に尊敬してやまない、小浜市の古刹、明通寺の住職、中島哲演老師です。彼が生涯をかけて行っているのは、原発反対運動です。若狭湾には一杯原発がありますが、小浜市には1基もありません。それは哲演老師が命をかけて反対運動をしているからです。

自衛隊は有事の時に国を守る事が大前提です。戦争以外に、大災害には欠かせない存在です。その意味で、哲演老師のあっと驚く発想には目からうろこが落ちました。

私たちハザード会が自衛隊が来る前に出来ることは、備蓄・耐震・避難ルート・避難場所などの情報を各戸で整備していく啓発活動だと思います。(文責：野呂美道)